

[5月例会] 講演会 2016年5月12日 18:00~20:00 於:近畿本部会議室

演題:「東南アジアにおける水ビジネスの事例」

講師:石丸 豊 技術士(上下水道・総監)((株)神鋼環境ソリューション 水環境技術本部)

(株)神鋼環境ソリューション(以下、同社)は、神戸製鋼グループ会社で、公共や産業向けの水処理関連事業や都市ごみ焼却等の廃棄物関連事業を展開している。石丸氏は、同社がベトナムを中心に展開する海外水ビジネスの一端を担っている。

1. ベトナムにおける水ビジネス展開

海外水ビジネス展開において、国際協力機構(JICA)や日本国内の自治体との連携が重要である。JICAは、FSをはじめとして、様々な民間連携事業メニューを準備しているので、有効に利用できる。日本の自治体は、現地自治体と同じ立場での協力体制による事業の進捗や民間の不得手な事業運営に関するノウハウの提供や補完が期待できる。また、日本の自治体においても、国際貢献・地元企業育成の名のもと、自職員の人才培养や技術継承の強化を図ることができる。このため、同社は神戸市や北九州市と協力している。同社は、ベトナム現地法人を設立し、基本的な対応は現地法人が担う。円借款によるODAやPPP案件は、同社が中心に案件対応を担うが、建設等の現地対応は、現地法人が担当する。これにより、現地での価格的な競争力が増す。ベトナムでは、排水処理設備が満足に整備されていない工場が多く、汚染水の垂れ流しが社会問題となっている。政府の通達や環境意識の高まりにより、排水処理設備の需要は高まっている。そのような中、日系企業と共にホーチミン市郊外の工業団地に出資し、誘致工場の排水を集中処理する設備の建設、維持管理にあたる事業を展開している。また、神戸市と連携し、タイランド湾に浮かぶベトナム最大の島であるフーコック島にて、上下水道整備に関するPPP(官民連携の取り組み)案件を現在進めている。その他に、北九州市と連携して取り組む「上向流式生物接触ろ過設備」の浄水場への展開やカンボジアへの水道事業への展開が紹介された。

2. 海外の水道施設紹介

我が国の水道施設は、「凝集沈殿+急速ろ過」が先に整備され、近年の水質変化に対応するために、「高度浄水処理」を後から付加したシステムとなっている。一方、インフラが十分に整備されていない発展途上国では、膜処理等の最新技術が初めから普及していく可能性が高いとの見解を示された。また、石丸氏が訪問されたアメリカや中国、シンガポール、オーストラリアの水道施設について、各々の地域の条件を考慮した施設の特徴を紹介された。特に、中国の黄河沿いの浄水場は、施設の巨大さや、高濁度原水の流入の特徴等、聴講者の注目を集めた。

3. 我が国の動向

海外水ビジネス市場は我が国の成長分野に位置づけられる。「モノ・技術を売るビジネス」から「資金を調達し、投資を行うビジネス」へ、官と民が連携し、現地企業と提携していく必要性や、知的戦略の重要性を説かれた。このあと、数多くの質疑があり、活発な討議がなされた。